

就活日誌

国際社会学科（女）

<内定先>

業界：流通・小売（専門店（ファッション・服飾関連））

業種：販売・運営

軸：現場が尊重されること・自分が尊敬できる商品やサービスを扱えること

12月 就活準備開始時期

- ・金髪だった髪を黒に染める。マイナビやリクナビなどの媒体からエントリーを開始。連日ネット上のESの応募締切に追われて毎日不機嫌。授業も毎日1コマからあったため、寝不足の日々が続く。
- ・後半から選考を受け始める（週1程度）。面接も楽しく毎週東京に行けることが、とにかく嬉しかった。
- ・業界紙は読んでいた。（織研新聞・WWD・ファッション販売）

1月 様々な企業を見たいと思った時期

- ・卒論が就職したい業界と密接であったため、インタビューと選考を兼ねることを思いつく。繊維業界やアパレル業界の合同説明会に参加。
- ・選考を複数社並行したが、卒論の調査のためという感じで実際に入りたいと思う企業は1つもなかった。逆に業界の「良くない面」をみる機会が多かった。
- ・いつか満足行く会社に出会えるという根拠のない自信があった。
- ・授業にほとんど行けなく、単位を落とすことを覚悟した。

2月 選考受けまくり時期

- ・週3~4日程は東京にいて、一日で4社選考や説明会に行くこともあったが、就職のためというよりは調査のためだった。
- ・就職したいと思える会社3社に出会う（専門店、繊維商社、ホテル）。特に専門店は社員の全ての人がかっこよく、選考通過の連絡が来るたびに「またあの人たちに会える！」と、とにかく嬉しかった。
- ・面接のコツや説明会での質問の仕方、GDの手順などをやりながら学び、ほぼほぼ選考は通っていた。
- ・テスト勉強に全く時間を割けず、単位を落とすことを本気で覚悟した。

3月 もうそろそろ終わらせたいと思った時期

- ・本命の企業で学力審査が始まる。SPI対策本をとりあえず1冊購入し1夜漬け。一社で複数回学力審査をやった企業もあったが、運が良かったのか通った。

- ・そろそろ調査よりも就職に集中したいと思い、持ち駒を減らす。

4月 就活の終わりと社会人0年目の開始時期

- ・入りたい企業3つのうちの1つだった専門店から内定をもらう。最終面接のその場で入社書類？に印を押す。残りの2社の選考は残っていたがやめた。ハッピーすぎる時期だった。
- ・内定者の合宿で奥多摩へ。人生ではじめて本気の山登りをする。ポテンシャルが高すぎる同期に焦る。大変なのはこれからだと悟る。

ふりかえって

私は志望する業界が明確で業種も間口が広いものだったので、苦労は極めて少なかったと思います。今後この就活日誌をご覧になるゼミの後輩のみなさんの就活とは、スケジュールを含め、あまり参考になることはないと思います。そのような中で何か今後に残せるとすれば、業界分析の重要さと面接対策のコツであると思います。

私は業界分析を普段から趣味として行っていたため、それに助けられました。業界の方が読む業界紙を普段から読み、新聞の商況で競合他社や関連会社の動向をいつも気にしていました。これにより面接が一方向的に質問に受け応えるということではなくなり、会話として成立させ、面接担当者とのコミュニケーションを心から楽しむことができました。どのような業界においても、その道の人がよく読む雑誌や新聞、または本などが存在するはずで、業界の先輩方と同じ情報を積極的に取りに行こうとするとは、みなさんにぜひやってほしいことです。

面接やGDに関しては、私は一切の就活本を読まず、対策セミナー等も全く参加しませんでした。就活をしながら、その場で学んでいました。自己流で面接を作り上げていく上で、本当に役立つ教材に出会いました。それは「人志松本のすべらない話」と「ダウンタウンDX」です。

面接というのは、「すべらない話」をすれば良いのだと思います。それは内容が滑稽で面白いということとは全く異なり、起承転結と「オチ」があり、話を聞く相手のリアクションを話しながらに想定できるということです。その全てが「人志松本のすべらない話」には入っています。面接では長所や学生生活で学んだことなどベタなことを繰り返し尋ねられますが、その全てに具体的なエピソードを交えて話すことを求められます。それはまさに「すべらない話」でなされていることと同じです。また複数人で共通のテーマについて話したり、そこから展開させていったりするので、集団面接で前後の人と、どのような関係性を持って、自己のアピールをしていくかということを教えてくれます。話がどのように展開されているかをメモに起こしてみると、大体のパターンが掴め、それと同じように自己のエピソードを語ってみると話しやすい・聞きやすい・反応しやすい面接になります。

「ダウンタウンDX」には話の下手な「すべる」芸能人も多く出ます。これもまた最適な教材

で、うまく話を終わらせなかった時に、浜田さんや松本さんがどのようにフォローをするかというところを見ます。人事は大体話が上手い人が多いので、なんとなくこのフォローを入れてくれますが、その反応がダウンタウンのお二人と似通っていたら、すべった証拠ですので、そのダウンタウンの反応を覚えていてください。そして、GD や集団で何かをする際に、上手く話せずすべってしまった他の就活性がいたら、ダウンタウンのように、拾ってあげてください。それができれば面接は楽しいです。

私の就活は楽しかったです。過酷で待遇が悪く将来性がないと言われるファッション業界において、私が選んだ会社は別格に良いと思います。やり甲斐しかなく、本当に働くことが楽しみです。こう思えるような就活を行えたことは、業界分析を苦にしなかった自分自身と、ダウンタウンさんのおかげによるものです。3年生のみなさん、目標の将来像探し、その第一歩となる新卒入社企業探しを、どうか楽しんで下さい。